# E-3 国際社会と理学療法

(2017年4月)

公益社団法人　日本理学療法士協会
生涯学習課

## 目次

はじめに
- WCPTと日本の理学療法
- 日本理学療法士協会の国際組織
- 国際社会活動に関するマスタープラン
- 世界における理学療法の動向
- 国際協力と理学療法士
- 用語の解説

まとめ



World Confederation for Physical Therapy

## World Confederation for Physical Therapy (WCPT)

**世界理学療法連盟**

– 1951年に設立されたNPO
– 2017年現在、112カ国が加盟
– 35万人以上の理学療法士を代表する組織



## WCPTは1951年に11カ国の協会で設立

- Australian Physiotherapy Association（オーストラリア）
- Canadian Physiotherapy Association（カナダ）
- Den alm. Danske Massageforening（デンマーク）
- Chartered Society of Physiotherapy（イギリス）
- New Zealand Society of Physiotherapists（ニュージーランド）
- American Physical Therapy Association（アメリカ）
- South African Society of Physiotherapists（南アフリカ）
- Kvinnliga Legitimerade Sjukgymnasters Riksforbund（スエーデン）
- Zentralverband der krankengymnastischen Landesverbande im Westdeutschen（西ドイツ）
- Norske Sykegymnasters Landsforbund（ノルウェー）
- Finlands Medikalgymnasters Forening（フィンランド）

## WCPT加盟国の推移

World Confederation for Physical Therapy

| 1951 | 1953 | 1956 | 1959 | 1963 | 1967 | 1970 | 1974 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Australia | France | Belgium | Colombia | Brazil | Austria | Jamaica | Greece |
| New | | Israel | | Guatemala | Chile | Japan | Korea |
| Zealand | | Holland | | Island | India | Mexico | Malaysia |
| Canada | | | | Portugal | Nigeria | Pakistan | Spain |
| USA | | | | Switzerland | Poland | Philippine | Suriname |
| South | | | | | Uruguay | Zambia | Turkey |
| Africa | | | | | | Zimbabwe | |
| Denmark | | | | | | | |
| Finland | | | | | | | |
| UK | | | | | | | |
| Norway | | | | | | | |
| Sweden | | | | | | | |
| Germany | | | | | | | |

5

## WCPT学会・総会開催地

World Confederation for Physical Therapy

1951 デンマーク
1953 ロンドン
1956 ニューヨーク
1959 パリ
1963 コペンハーゲン
1967 メルボルン
1970 アムステルダム
1974 モントリオール
1978 テルアビブ
1982 ストックホルム
1987 シドニー
1991 ロンドン
1995 ワシントンDC
1999 横浜
2003 バルセロナ
2007 バンクーバー
2011 アムステルダム
2015 シンガポール

WCPT congress in 1999
(Yokohama, JAPAN)

「理学療法が今後とも急速な医学の進歩の成果を取り入れながら，
人々の生活の質を向上させるためにさらに貢献していくよう願っております」

6

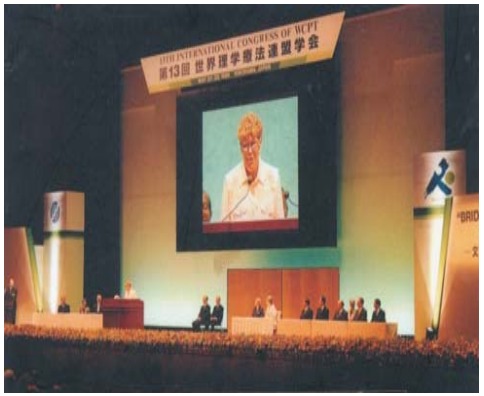
World Confederation for Physical Therapy

## 第13回WCPT学術大会

- 1999年、横浜で開催された世界理学療法連盟学術大会は日本の理学療法士協会が総力をあげて取り組んだ。
- 横浜大会開会式での天皇・皇后両陛下の「理学療法が今後とも医学の進歩の成果を取り入れながら、人々の生活の質を向上させるためにさらに貢献していくよう」とのメッセージは、12年後のアムステルダム大会においても絶賛された。

7

## WCPT 1999　於　横浜



8

## International Service Awards

World Confederation for Physical Therapy

9

10

11

12

13

森永敏博先生
WCPT
国際貢献賞
受賞記念手記

WCPT国際貢献賞を受賞して

14

World Confederation for Physical Therapy

## WCPTのVISION
## （ビジョン・方向性）

WCPT's vision is to move physical therapy forward so the profession is recognised globally for its significant role in improving health and wellbeing.

職能的、学術的、教育的、臨床的、あらゆる方面における理学療法を前に進める

15

## WCPTの究極のMission（任務、使命）

1. UNITE the profession internationally
（専門職を国際的に統合・団結する）
2. REPRESENTING the physical therapy profession internationally;
（理学療法の専門性を国際的に説明、表現、代表する）
3. PROMOTE high standards of physical therapy research, education and practice;
（理学療法の研究、教育、臨床の高いレベルでの標準化を推進する）
3. FACILITATE communication and information exchange among member organisations, regions, subgroups and their members;
（WCPT内のコミュニケーションや情報交換を促進する）
4. COLLABORATING with international and national organizations;
（国際および国内の機関や組織と協調する）
5. CONTRIBUTE to the improvement of global health.
（全世界の健康に貢献すること）

16

# WCPTの目的（WCPT定款より）

1. 高いレベルの理学療法を推進する。
2. 各国の理学療法士協会の発展や強みを促進する。
3. 理学療法士の国際会議の開催を含む情報の伝達と交換を奨励する。
4. 国際的に理学療法を説明、表現、代表する。
5. 全世界の健康、ウエルネス、フィットネスを促進する。
6. 関連する国際機関および国内機関と協力する。
7. 健康に関連する社会的、政治的問題について意見する。
8. 理学療法士の最善の利益と理学療法の専門性のために必要なすべての活動をする。
9. 理学療法利用者の利益のために必要なすべての活動をする。

17

# 地域別WCPT 加盟国数（2017）

World Confederation for Physical Therapy

Asia Western Pacific

アジア西太平洋
27カ国

European

ヨーロッパ
42カ国

North America Caribbean

北アメリカカリビアン
14カ国

Africa

アフリカ
20カ国

South America

南アメリカ
10カ国

18

| Africa | Asia Western Pacific | Europe | North America Caribbean | South America |
|---|---|---|---|---|
| Benin | Afghanistan | Albania, Austria, | Bahamas | Argentina |
| Congo | Australia | Belgium, Bosnia and | Barbados | Bolivia |
| Egypt | Bahrain | Herzegovina | Bermuda | Brazil |
| Ethiopia | Bangladesh | Bulgaria, Croatia | Canada | Chile |
| Ghana | Cambodia | Cyprus, | Costa Rica | Colombia |
| Kenya | Fiji | Czech Republic | Curaçao | Ecuador |
| Malawi | Hong Kong | Denmark, Estonia, | Guatemala | Mexico |
| Mauritius | Indonesia | Finland, France, | Guyana | Peru |
| Namibia | Iran | Germany, Greece, | Jamaica | Uruguay |
| Nigeria | Japan | Hungary, Iceland, | Panama | Venezuela |
| Rwanda | Korea | Ireland, Israel, Italy | Puerto Rico | |
| South Africa | Kuwait | Jordan, Latvia | Suriname | |
| Sudan | Macau | Lebanon, | Trinidad and | |
| Swaziland | Malaysia | Liechtenstein | Tobago | |
| Tanzania | Mongolia | Lithuania, | United States of | |
| Togo | Mongolian | Luxembourg | America | |
| Uganda | Myanmar | Malta, Montenegro | | |
| Zambia | Nepal | Netherlands | | |
| Zimbabwe | New Zealand | Norway, Poland | | |
| | Oman | Portugal, Romania | | |
| | Pakistan | Serbia, Slovakia | | |
| | Philippines | Slovenia, Spain | | |
| | Saudi Arabia | Sweden | | |
| | Singapore | Switzerland | | |
| | Sri Lanka | Syria, Turkey | | |
| | Taiwan | Ukraine | | |
| | Thailand | United Kingdom | | |
| | United Arab Emirates | | | |

World Confederation for Physical Therapy

19

# Asia Western Pacific Region of WCPT; AWP
# （27協会が加盟）

| | | | |
|---|---|---|---|
| Afghanistan | Australia | Bahrain | Bangladesh |
| Cambodia | Fiji | Hong Kong | India |
| Indonesia | Iran | Japan | Korea |
| Kuwait | Macau | Malaysia | Mongolia |
| Nepal | New Zealand | Oman | Pakistan |
| Philippines | Saudi Arabia | Singapore | Sri Lanka |
| Taiwan | Thailand | United Arab Emirates | |

20

## アジア理学療法士連盟
## (Asian Confederation for Physical Therapy：ACPT)

- 日本、台湾、韓国、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンの7か国で1980年に設立。
- 現在までにマカオが加盟し8か国での構成となっている。
- WCPTとは別組織。
- アジア地区での相互理解や友好関係を深めることを目的とした団体。

わが国同様、これらアジア諸国は第二次世界大戦後、世界保健機構（WHO）やアメリカなど西洋諸国の支援の下に理学療法教育制度が整い、理学療法士が養成されてきた。フィリピン、マカオを除き英語を母国語としない歴史的にも文化的にも価値観を共有するアジア諸国で友好を深めることはたいへん意義のあることで、今後も情報交換をしながら理学療法士の地位向上に努めていくことが確認されている。

21

## アジア理学療法士連盟
## (Asian Confederation for Physical Therapy：ACPT)

ACPTの目的

1）アジア地区における理学療法の相互理解と有効を深めること

2）加盟国の理学療法に関する互いの情報や出版物を交換すること

3）理学療法の地位、権利と名誉を保障して守ること

4）加盟国間の交流と協力を促進し、改善すること

5）理学療法に関する情報、相談および援助を提供すること

6）加盟国理学療法士の参加する学術会議、講演会、その他の会議を開催すること

7）理学療法に関する研究や研究方法を発展させること

8）ACPTの目的を達成するために印刷物を出版し、参加国に配布すること

9）目的達成に寄与するものに対し、協力を惜しまないこと

22

## WCPTの12のサブグループ

1. International Acupuncture Association of Physical Therapists(IAAPT)鍼灸
2. International Association of Physical Therapists in Animal Practice (IAPTAP) 動物
3. International Confederation of Cardiorespiratory Physical Therapists (ICCrPT) 心肺
4. International Society for Electrophysical Agents in Physical Therapy (ISEAPT) 物理療法
5. International Federation of Orthopaedic Manipulative Physical Therapists (IFOMPT) 徒手療法
6. International Organization of Physical Therapists in Mental Health (IOPTMH) 精神心理領域の理学療法
7. International Neurological Physical Therapy Association (INPA) 神経
8. International Association of Physical Therapists Working with Older People (IPTOP) 高齢者に対する理学療法
9. International Organisation of Physical Therapists in Paediatrics (IOPTP) 小児分野の理学療法
10. International Private Physical Therapy Association (IPPTA) 開業者の組織
11. International Federation of Sports Physical Therapy (IFSPT) スポーツ理学療法
12. International Organization of Physical Therapists in Women's Health (IOPTWH) 女性の健康問題

23

## WCPT network

- WCPTは理学療法の国際的なネットワーク活動を支援している。
- ネットワークはグループよりも個人を対象にし、情報の共有や各種支援、資源のプール、コミュニケーションを主な目的としている。
- 公式なグループとして存在するわけではなく、ウェブサイト上でフォーラムを展開したりすることで自由にコミュニケーションを行っている。

① Aquatic Physical Therapy International

② International Network of Spinal Cord Injury Physiotherapists

③ International Society of Physiotherapy Journal Editors

④ WCPT network for ICF

⑤ WCPT Network for Intellectual and Developmental Disability (IDD)

⑥ WCPT Physical Therapy Pain Network (PTP)

24

## International physical therapy Groups

WCPTは、各種専門領域の国際的理学療法組織とも協働している。
以下に挙げるグループは将来、WCPTの公式のサブグループとなっていくことが期待されている。

1. International Federation of Physical Therapists working in Occupational Health and Ergonomics
2. International Oncology, Palliative Care, and HIV/AIDS Physical Therapy Association
3. International Physiotherapy Group for Cystic Fibrosis
4. International Society of Educators in Physiotherapy

25

## 世界の理学療法士の関心事

- 世界の理学療法は、その国の医療の歴史、保険制度、政治、経済状況、宗教、伝統医療、自然環境などの各種要素が影響し、すべて同じというわけではない。
- 健康保健分野、医療分野、福祉分野での理学療法士の役割も様々であるが、理学療法に医師の指示（処方箋）が必要（自律性がない）、類似職種や伝統医療との対立がある、など共通する課題もある。

26

## 世界の理学療法の関心事(WCPT)

（基本方針の宣言から）
・自律性　・教育
・倫理原則　・説明と同意
・根拠に基づく臨床実践
・人的資源の計画
・理学療法における患者の権利
・保健　・質の確保
・個人開業（クリニック）
・名称独占　・医療開業医との関係
・他の医療関連職種との関係
・研究
・子供の権利についての国連大会
・患者（顧客）の権利
・理学療法実践の標準　・拷問

（見解声明文から）
・理学療法の解説
・規則と互換
・専門化
・地域に根ざしたリハビリテーション
・理学療法実践の支援者（助手など）
・高齢者の理学療法ケア
・高リスクの感染症
・理学療法士は生涯にわたる運動実践に関する専門家である

27

## Autonomy（自律性）

- わが国では、保険診療上、医師の指示なしに理学療法士が患者の診療行為を行うことを禁じている。
- 病医院の近隣に併設される調剤薬局のような施設を理学療法士が設置責任者（管理者）となり理学療法施設として設置することも認められていないし、医師の指示なしに自宅に訪問して理学療法診療行為をすることもできない。
- 理学療法士が接骨院や鍼灸院のような個人クリニックを開設して医療療行為を行うことも禁じられている。

28

## Autonomy（自律性）

- 理学療法士が医療や介護分野、健康増進分野、予防分野で、運動の専門家として治療や介入の判断を行うことに対して、雇用主や他の医療職などにコントロールされない自由を持つこと

- 理学療法士による評価、判断、治療などが他人に影響されることなく決定できることは、まさに理学療法士が自律性のある専門職であることを意味する。

- この自律性の獲得は結果的に、理学療法士の専門性と社会の認知度を高めることにもつながります。

29

## Autonomy（自律性）

- 理学療法士は自律性のある独立した専門家であるとの立場から、世界の国々では理学療法のクリニックを個人開業できる国が多い（個人開業できない国のほうが少ない）。

- しかし、保健診療下での個人開業にはまだ制限があり、クリニックでの理学療法が保険診療下で行えることを課題としている国も多い。

**日本理学療法士協会は、現在の法律下では、保険診療下での理学療法士の直接診療を是とする立場をとっていない**

30

## Direct Access（ダイレクトアクセス）
## → Self referral

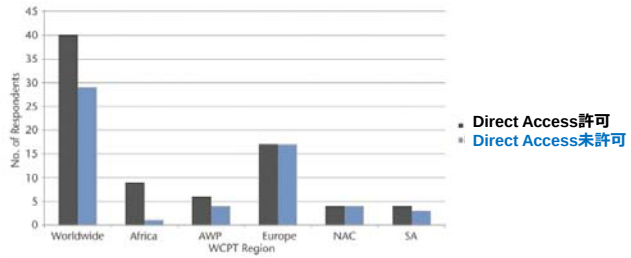
- 倫理上も法律上も理学療法サービスを提供する前に必ずしも医師の診察を受けなくてもいい国が増えている。
- 理学療法士が包括的に評価を行い、診断や、治療計画の立案、運動療法の実施、結果の検証、退院のアレンジメントなどを行う。

- もちろん、医療は理学療法士だけでできるものではなく、他の医療職種との適切なコミュニケーションと連携は重要である。
- 専門性を確保しつつ、自律性のある専門職としての地位獲得の取り組みが各国で行われている。

31

## 世界の地域別ダイレクトアクセスの可否の比較

WCPTが2013年に行った調査によると、106か国を対象にしたアンケート調査で72か国（68%）の回答が得られ、そのうち、Direct Access に対する質問に回答があった69か国中40か国（58%）にDirect Accessまたはself-referralが許可されていた。




Bury TJ, Stokes EK. A global view of direct access and patient selfreferral to physical therapy: implications for the profession. Phys Ther. 2013;93:449–459.

32

Direct access and patient self-referral
to physical therapy

http://wcpt.org/node/34062

33

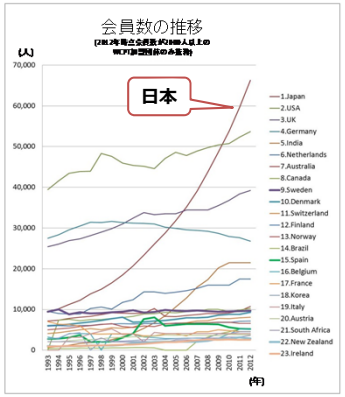
# WCPTと日本の理学療法

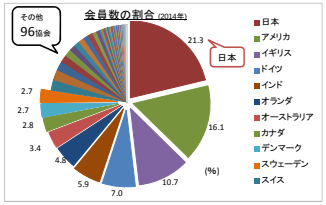
- リハビリテーション技術指導を受けた時代

  （1961～1975年、WHO並びにWCPTからの指導を受け主要科目を海外の理学療法士に委ねられていた時期）
- 国立療養所東京病院に附属リハビリテーション学院として我が国初の理学療法士、作業療法士養成校が設立され（1963年）
- 理学療法士14名、作業療法士5名が卒業（1966年）と同時に第１回国家試験合格者183名により日本理学療法士協会が設立される。協会組織として教育部、国際部が発足
  当時の協会重点事業の三本柱：WCPT加盟、社団法人化、業務独占
- 1974年　WCPT総会、学会（モントリオール）で日本の正式加盟が認められる

34

# WCPTと日本の理学療法



35

# 国際社会に関する
# 協会のマスタープラン

日本理学療法士協会ではこれまでに
・JICA（国際協力機構）
・JIMTEF（国際医療技術財団）
・JANNET（障害分野ＮＧＯ連絡会）等の活動を支援。

日本作業療法士協会と共同で、2013年までに20回の海外技術協力セミナーを開催した。

現在はWCPTやAWP、その他、諸外国の理学療法士協会との連携を強め、医療関連の国際学会・団体の活動へも積極的参画している。

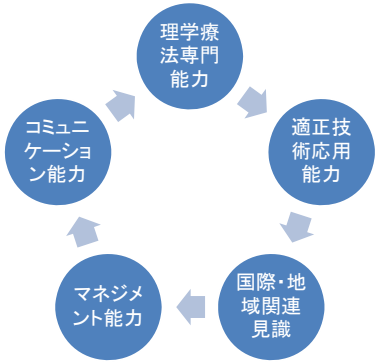
36

# 国際協力の基本

①貧困が削減され、人権が認められた公正な社会の創造に貢献する
②グローバル化する世界の中、人間中心の開発への信頼と互いに異なる文化、信仰、生活様式を尊重し合う
③献身、尊敬、職業精神、人間性を備え、人々と生活・労働を共にし、相互に学び交流し、各地域の「開発課題」にチャレンジ
④その参画活動を通じて日本受け入れ国双方の社会の発展に貢献する
⑤ボランテイア活動の経験は自らの成長に資する
（国連 ボランテイア宣言より）

37

# 国際協力に携わる　５つの基本




38

# JICAボランティア

JICAボランティア事業には、青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニア・ボランティアの４つがあります。

- 青年海外協力隊とは
  1．相手国の人々と生活と労働を共にしながら相手国の社会的及び経済的開発発展に協力する
  2．開発途上国との親善と相互理解を深める
  3．日本青年の広い国際的視野の涵養に資すること、またボランティア経験を社会に還元すること
  4．理学療法士の要請内容は知的障害・発達障害、乳幼児から高齢者まで幅広くあらゆる疾患に対応する能力のあることが望ましいが、地域に特化された疾病もあり現地の理学療法士等カウンターパートとの共同作業が重要である

＊対象年令　２０歳～３９歳
＊理学療法士経験　３年以上が望ましい、例外的に2年以上
＊参加形態　現職参加　退職参加
＊派遣期間　原則として２年
＊募集形態　春・秋　年２回
＊派遣前訓練期間　７０日程度
＊派遣形態　年４回　１次隊　２次隊　３次隊　４次隊派遣

39

# 国際社会に通用する理学療法士の資質

- グローバルな視点を養う
- 多文化共生の理解に努める
- 連携・チームプレイへの努力
- 環境への適応能力
- 語学への関心、努力
- 研究心
- 確かな技術

40

## 青年海外協力隊
## 理学療法士派遣数

- 派遣中　56名（男性　27名　女性　29名）
- 帰国数　477名（男性182名　女性295名）
- 累　計　533名（男性209名　女性324名）

- 累計派遣国数　59か国
- 派遣先数上位国：マレーシア、
  パプアニューギニア、
  ベトナム、中華人民共和国
  タイ
  （2017年1月31日現在）

41

## 帰国隊員の調査から

- 参加時の平均年齢：２８歳
- 参加までの平均経験年数：５年

- 配属先の施設様式：病院 ３９%、
  リハビリテーションセンター、小児施設 １７% 他

- 経験者の声：
  - 理学療法士としても一人の人間としてもいろいろな体験ができた
  - 様々な価値観があることを実感できた
  - 「学び」を得ることが多かったように思う
  - 国際協力は帰国してからどう経験を生かすかが重要

42

## 求められる技術

- 理学療法
- 福祉機器
- バリアフリーの環境
- ADLの介助方法
- 予防的なグループ体操
- 現地での適正技術
- カウンターパートへの伝達指導

43

## 理学療法士ワークショップ

44

## 帰国後のライフコース

- 選択肢の広がり
  国際協力への参加
  語学力を活かした留学
  大学、大学院への進学
  専門家、シニア海外ボランテイアへの参加
  NGO、NPOにおける活動
  企業の社会貢献、国際貢献への参加

45

## 国際交流を広げる、深める

- 大学・養成校における国際間のカリキュラムの互換性
- 交換留学の奨励
- 国際的共同研究と開発への取り組み
- 国際学会への積極的な参加

46

## 海外臨床実習教育の交流

- 臨床実習指導者のサポート
- 臨床実習期間の延長
- 海外実習の積極的開拓
- 卒後教育・生涯研鑽に繋がる一貫教育の配慮
- 選抜された学生の特別プログラム
- 指導が難しい学生への対応プログラム
- 多様化する隣接領域役割の理解
- コトバに終わらせない倫理要綱の実践
- 臨床実習地のランキング付けの試み

47

## 海外技術協力のあゆみ（1）

1966 日本理学療法士協会設立時より教育部、国際部の2部門が発足
1974 協会重点事業の三本柱の一つであったWCPT加盟が実現
1978 外人PTOTに対する特例免許交付
1981 ACPT結成（バンコク）
1982 WCPT理事に森永敏博（国際部長）
1986 ACPT総会・学会（東京・松村秩）
1992 奨学金給付制度
　海外研修員受け入れ事業（JICA、JIMTEF）
1993 28回日本理学療法士学会（横浜）WCPT理事会同時開催
　メインテーマ：国際的視野に立った理学療法
　・WCPT理事による講演会・CBR創始者によるシンポジウム
　・青年海外協力隊隊員による報告会
1994 ソロCBRプロジェクト（5カ年） 技術協力、技術交流交換
　第1次派遣　山本正義（現地調査）
　ソロCBRスタディツアー15名
　現地CBRセンターに寄贈＊CBR巡回車＊ビデオ撮影機
　第2次派遣～第5次派遣まで実施

48

## 海外技術協力のあゆみ(2)

1994　＊フィリピンへスポーツ用車椅子寄贈
　　＊コスタリカへ小児用車椅子寄贈
1995　WCPT理事　奈良勲
　　CBRプロジェクト第2次派遣　久野研二　工藤俊輔
　　（障害児・者への技術提供、適正技術、シーティング作成）
1996　CBRプロジェクト第3次派遣　首藤奈保　（事業評価）
1997　CBRプロジェクト第4次派遣　大澤諭樹彦（活動実績評価）
　　京都学会にて協力隊OV会議　25名
1997　現地評価　（JIMTEF,　PT協会　黒川）
　　CBR総括会議　東京　ハンドヨ博士ご夫妻招へい



## 海外技術協力のあゆみ(3)

1998　青年海外協力隊アンケート調査実施・報告書発行
　　各年次派遣者による報告書の発行
　　CBRその考え方と実践の翻訳発行
1999　第13回WCPT総会、学術大会（横浜）
　　天皇皇后両陛下ご臨席 参加者　6500名（海外より2500名）
　　会期中CBRフォーラム開催　参加者　海外53名　国内61名
2001　PT,OT協会国際部合同会議開催
　　第9回海外技術協力セミナー（第1回交流会）共催
　　「医療技術スタッフ練成コース」開始、JICA,JIMTEF,PT,OT協会
　　コースの狙い、CBRに必要なリハ概念と技術の習得
2002　第10回海外技術協力セミナー（PT,OT合同）
　　国際教育夏季セミナー開催（国際部、教育部合同開催）
2003　以下、毎年PT協会、OT協会交互に
　　開催を担当制として　海外技術協力セミナーの開催継続



## 海外研修受け入れ事業
## 「医療技術スタッフ練成コース」

コースの狙い　CBR分野で活動できる人材
– 2001開始　毎年　2006年からアクションプランを立てて発表してもらう
– （帰国後の活動支援と決意）
1）タンザニア　K　男性
– 帰国後のグッドプラクテイス例
– 腰痛の多い国の予防的指導に着目　小学校の協力校に腰痛予防体操の時間
2）タンザニア　ドミニク
– 助産師の資格を持つOT
– 二つの専門技術を持ちながらCBR分野で人材育成
3）パキスタン　アフラック　PT
　カラチ大震災後の500人の脊損者を地域に帰れるようにCBR開拓
4）アフガニスタン　アテカ　PT
– アフガニスタン唯一の養成校の教員学生指導にCBRの概念を導入
5）エクアドル　ラミレス
– 富裕層を相手の開業PTだが、貧困層への無料サービスを2割導入



## 災害と理学療法

- 3･11以降　災害と医療チーム
  時代のニード
  理学療法士の役割の拡大
  災害への対応
  社会弱者への対応
  国境を越えて共通の課題

## 高齢社会と理学療法

- 日本高齢社会対応の理学療法の経験は東アジアをはじめ欧米へも日本モデルを発信できる。これからの若い日本理学療法士に期待出来る課題である。

53

## グローバルの課題に対応する グローバル人材

- 地域でも日本でも世界に通用する プロフェッショナルとしての理学療法士

54

## 国際協力で培うマネジメント力（田口）

- 協同プレー＞ 一人相撲
- 謙虚・後押し＞ 高慢・強引
- 解決・実行＞ おしゃべり・批判
- フットワークによる調整力＞ 口先だけの交渉力
- 学ぶ＞ 教える
- 創造・工夫＞ 既成品
- 明朗・ユーモア＞ 悲壮・憤満
- 障害者＞ 非障害者

55

## 取り組むべき課題

- 隊員が蒔いた種を育むフォローアップ
- 協力経験がどのように活かされているか
- 帰国後の研修・専門能力の研鑽等
- 国際学会等への参加と発表
- 帰国隊員他第三者の評価
- 継続性とフォローアップ

56

アジアの理学療法士

57

# 理学療法に関連する略語・用語

- NGO: 非政府系組織（Non Governmental Organization）
- NPO:特定非営利活動団体（Non –Profit Organization）
- WID: 開発と女性（Women in Development）
- MCH: 母子保健プログラム（Maternal and Child Health）乳幼児の保健プログラムと乳幼児の生存と健康的な発達を前提となる母親の健康維持のための保健プログラムを合わせた包括的アプローチ
- ジェンダー（Gender）「社会、文化的に規定される性別分類概念」である社会における男性、女性の社会的役割及びその相互関係を明らかにするための分析概念

58

# 理学療法に関連する略語・用語

- JICA: 独立行政法人　国際協力機構（Japan International Cooperation Agency）
- JOCV:　青年海外協力隊（Japan Overseas　Cooperative Volunteers）
- C/P: カウンターパート（Counterpart）技術協力の対象となるボランテイア受け入れ国の行政官や技術指導者を指す
- SV: シニア海外ボランテイア（Senior　Volunteers）
- ４０歳以上～６９歳までの途上国社会に貢献し得る技術、知識、経験を有する者
- ODA:政府開発援助（Official Development Assistance）

59

# 理学療法に関連する用語・略語

- 適正技術：（Appropriate technology）
- 先進国で開発された技術や製品化された技術がそのまま開発途上国で利用される時、本来の効果を上げ得ず、その国の伝統的に利用されている現地の在来技術のニーズに合致した方法を活かしていく方法で入手困難な福祉機器の作成に創意工夫をしていく
- プロジェクト方式技術協力（Project-type technical cooperation）:開発途上国における技術移転、適正技術と人づくりのため三つの協力形態（日本人専門家の現地派遣による技術指導、相手国関係技術者の日本研修受け入れによる技術の習得、必要な機材の供与）を主な柱とし関連付けながら実施していくJICA協力事業

60

## 理学療法に関連する用語・略語

- PHC: プライマリ・ヘルス・ケア（Primary Health Care）
- PHCの基本活動項目二は健康教育、安全な食物と水の環境設備、地域または村のヘルスワーカーの活用、予防接種、家族計画を含む母子保健、風土病の予防、一般的な病気とケガの適切な治療，必須医薬品の準備供給、栄養改善がある。アルマアタ宣言（１９７８年）「西暦２０００年までに世界中すべての人々に健康を」
- 実現する鍵として位置づけられ３０年経ち各途上国では様々なPHC方針である程度の成果を収めているが多くの課題は残された状況にある

61

## まとめ

- 日本の理学療法は誕生して５０年を過ぎた
- 日本理学療法士協会の会員数は１０万名を超え、WCPT加盟国の中でも世界のトップとなった
- しかし日本の理学療法を世界の理学療法と比べると,自律性（Autonomy）、教育、働く場所、開業権の有無など他国とはまだ異なる面も多い
- 一方、日本は西側先進国の支援で理学療法が開始され、５０年が経過する中で多くの知見を積み重ねてきた
- これまでに歩んできた歴史を鑑み　それぞれの国の事情や環境をよく理解し、世界の理学療法士の一員としてさらに発展、貢献する努力を惜しんではならない
- 若い理学療法士の皆さんの益々の研鑽と活躍を期待したい

62